

6月20日(月)～6月26日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援

日本文化センター主催
チャリティコンサート鑑賞



レストラン利用者から日本の支援者の皆様へ、手作りの壁掛けを頂いた。

ご支援総額

2022年6月21日までの寄付総額 88,422,317 円

寄付金使用総額 945940.46 zł (2743万円)

6/20(月)～6/26(日)の期間中の寄附金使用額

76672.32 zł(約222万円)



活動内容

支援所への支援物資提供

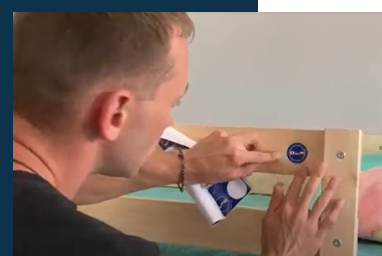
週に3回、支援物資の買い出し支援を実施。

おむつ、ミルク、大人用おむつ、生理用品などの消耗品が不足しており、これらは毎回購入して提供している。

また、これまで支援していたクラクフ中央駅・プラットフォーム4番避難所の引っ越し先であるOpolska支援所を視察。

福田会より支援した2段ベッドに、ウクライナ語で「日本の社会福祉法人 福田会」と記されたステッカーを貼付した。

現在、Opolska支援所への追加の支援について検討中。



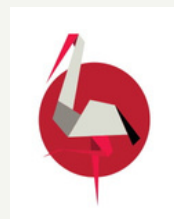
レストランプロジェクト

各レストランを訪問し、福田会を通しての支援者の皆様からのメッセージをウクライナ語訳したものを貼付。

避難民の方にとって、支援の声はとても大きな心の支えとなっている。

メッセージを見たレストラン利用者らは、「遠い日本からわざわざありがとう。」「温かいメッセージに励まされました。」と一様に喜んでいた。





活動内容

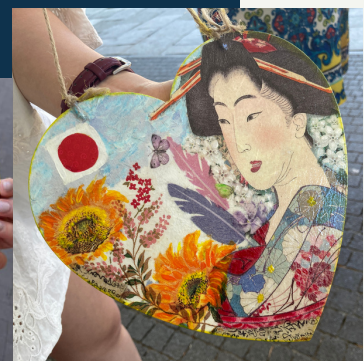
食材支援

避難先で調理可能な避難者に対し、週に1度の食材支援を実施。

一人あたりの予算を設け、1週間分の昼食用の食材を購入。各家庭で必要食材を選んでもらい、レジでの決済を福田会スタッフが担当した。

20家族分 1993.91 zł (約58,000円)を購入し、それぞれ野菜・果物・肉・乳製品・パン等を購入していた。

また、避難民の方から日本の皆様へ、支援のお礼の壁掛けを頂いた。裏面にはありがとうと書かれている。

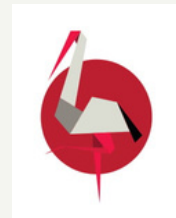


日本文化センター主催チャリティコンサート鑑賞

ウクライナとの国境近くの町プシェミシルの日本文化センターでは、ウクライナから避難してきた動物を保護しており、福田会では動物用の餌と小屋の建設費用を支援予定。

同センターのチャリティコンサートがクラクフで行われたため、コンサートの鑑賞及び代表者に挨拶。





現地の動向

国境警備隊によると、ポーランドに流入したウクライナ避難民の数は約432万人に及び、ポーランドからウクライナ国内へと出発した人の数は233万人とされている。(6月25日時点)

行政運営の支援所が閉鎖されていく中で、ポーランド政府はウクライナ人救済の為、欧州評議開発銀行と4億5千万ユーロの融資契約を締結した。

また、2月の侵攻以降ウクライナからの避難民を無償で輸送してきたポーランド鉄道(PKP)は、6月末で無料輸送サービスを終了すると発表した。

帰国することが出来ない避難民は、次々と打ち切られる支援によって苦しい状況に立たされている。

働き先が見つからず、働きたくても働けない人も多いため、市中心部ではウクライナ人による路上パフォーマンスが増加している。

